



※イラストの指文字は相手から見た形です。

手話も 覚えてみよう

vol.31

○東京2025デフリンピック

11月15～26日に、日本で初めてとなる東京2025デフリンピックが、国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD) 主催で開催されます。

ICSDのロゴマークは、ろう者のデザイナー作で、「手話」「ろう文化」「結束と継続」の要素が集約されています。手の形が「OK」「GOOD」「GREAT」を意味し、「デフリンピック」の手話単語および「結束」を表現しています。中央は「目」を表しており、ろう者が視覚中心の生活を営んでいることを示しています。



▲ICSDのロゴマーク

※ICSDのロゴマークに関する一切の知的財産権はICSDが保有し、日本では全日本ろうあ連盟が管理しています。

やってみよう！～身近な言葉の手話～

普段使う言葉を手話でやってみましょう。 ※QRコードを読み込んで、手話の動画を見ることもできます。

スポーツ

胸の前で両手を開いて交互に回す。

東京

両手の親指と人差し指を立てて、手のひら側を相手に向けて、2回上げる。

問い合わせ先 福祉支援課障がい福祉担当 ☎(584)1111(代) 📠(584)1154

奴国は『後漢書』倭伝に「建武中元2年(西暦57年)、倭の奴国、奉貢朝賀す。(中略)光武、賜うに印綬を以てす」とあり、中国の歴史書で最初に記された国です。『後漢書』光武帝本紀には「東夷奴国王、使を遣わして奉獻す」とあり、王(金印)を受け取った奴国王もいた福岡平野一帯の大国です。弥生時代中期前半～後期(紀元前2世紀～紀元後3世紀初め)の王都は福岡市域の遺跡とする説もあるようですが、とてもない。王都は須玖遺跡群です。弥生時代中期後半(紀元前1世紀)にも、奴国と伊都国(現…糸島地方)には

奴国の丘歴史資料館 市報DE講義

名誉館長の



武末 純一 名誉館長
(福岡大学名誉教授)

問い合わせ先 文化財整備活用担当 ☎(501)1144 📠(573)1077

王がいました。その証拠は、伊都国の王都である三雲・井原遺跡の三雲南小路王墓と須玖岡本王墓です。細形青銅武器に代わって首長層のアイテムとなった完形中国鏡をいずれも30面上副葬し、面径20cm以上の大型鏡を含みます。この2国より下の国々では、多くても6面で、大型鏡はありません。三雲南小路王墓は1822(文政5)年に発見され、県が1974、1975年に発掘し、甕棺片や多数の中国鏡片、金銅製四葉座金具、ガラス璧片などが出土しました。金銅製四葉座金具は前漢の皇帝が東夷の王に用意し楽浪郡に保管させた木棺の飾金具であり、王の証です。これと同等の副葬品を持つ須玖岡本も王墓です。金印を受け取った奴国王の墓はまだ見つかっていませんが、須玖遺跡群では周辺も含めて前漢～後漢の完形中国鏡が他にも10面ほどあります。福岡市では最大の比恵・那珂遺跡群でも完形中国鏡は出土していません。弥生時代の王墓を含む首長層墓は、居住集落の横に造りますから、奴国の王都は須玖遺跡群といえます。



▲須玖岡本遺跡から出土した草葉文鏡(復元品)